



令和8年度会長 梶間 正也

この度、教育後援会会長を仰せつかりました、梶間正也と申します。
会員の皆様、教職員の皆様には、日頃より教育後援会の運営に対し、
多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私自身、本校の卒業生であり、現在は5年生と1年生に息子を持つ保護者でもあります。母校の発展と、未来を担う学生たちの健やかな成長を支える大役を授かり、その責任の重さに身が引き締まる思いです。

さて、会員の皆様の中には、私のような1970年代後半生まれの方も多くいらっしゃると思いますが、少年時代に夢中になったものというとなんを思い浮かべますか。

私は、タミヤの「ミニ四駆」です。

今思えば、あれが私のエンジニアへの第一歩だったかもしれません。お小遣いを握りしめて模型店へ走り、手に入れた小さな箱。説明書通りに組み立てるだけでは満足できず、どうすれば0.1秒でも速く走るのか、必死に考えました。軽量化のためにボディに穴を開ける肉抜き。コーナーでコースアウトしないためのローラーの工夫。時には見た目にもこだわったオリジナルの塗装。

正解のない中で仮説を立て、実験し、失敗しては改善する。あの時、友達と競い合いながら夢中で手を動かした経験は、驚くほど現在の仕事の基礎に直結しています。「工夫して、改善して、完成させる」という一連のプロセスは、形を変え、規模を変え、今の仕事の源流にあるように思います。

技術の世界は日進月歩ですが、根底にある「なぜだろう」「もっと良くしたい」という知的好奇心は不変です。福井高専という最高の環境で、仲間と切磋琢磨し、時には試行錯誤を繰り返してください。その時間は、決して無駄にはなりません。皆さんが今、夢中で取り組んでいることのすべてが、将来、社会を支えるエンジニアとしての血肉となることを、一人のOBとして、そして親として確信しています。

最後になりますが、学生たちが安心して学業に励み、豊かな人間性を育める環境を整えるため、教職員の皆様と連携しながら、精一杯努めてまいります。

会員の皆様におかれましては、今後とも本会の活動に対し、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。